

2019年度 学校経営計画及び学校評価【城星学園中学校・高等学校】

1 めざす学校像

城星学園は、カトリックの精神に基づき、創立者聖ヨハネ・ボスコ（ドン・ボスコ）の教育理念である『道理』と『信仰』と『愛』に根ざした教育法によって、園児、児童、生徒の全人間教育に励み、神を敬い、人を愛し、自然を大切に『良心的な人間、よき社会人』を育成することを使命としています。

「教育は心の問題であり、青少年を愛するだけでは足りません。
青少年が愛されていると感じられるように彼らと共に生きる」

2 中期方針・中期行動計画

- 1 ドン・ボスコの精神によるカトリック学校を維持する
 - (A)カトリックの精神、ドン・ボスコとマリア・マサレロの教育、特に「アッスンツァ」の理解を深める
 - (B)生徒教員共に、祈りと自己の振り返りの時をもつ
- 2 「園児・児童・生徒の安全」管理を徹底する
 - (A)様々な面における安全教育を向上させる
 - (B)問題事象の早期発見、早期対応を行う
- 3 『良心的な人間、よき社会人』を育成する教職員』を育成する
 - (A)2020年を皮切りとする改革に向けて多様な価値を求める教育の新しい方向性を実現する
 - (B)女子校の教育として、礼儀、マナー、身だしなみの指導力を向上させる
- 4 校種間、兄妹校間の連携を強化する
 - (A)「はぐくみの園」の精神に則り、15年、12年、6年一貫教育の賛同者を増やす
 - (B)大阪星光学院との連携による効果を形にする
- 5 自然に挨拶が交わせる学園にする
 - (A)他校種、法人の教職員と共にあることを意識する
 - (B)社会人として、周囲に喜ばれる人を育てる

【自己評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見】

ア. 自己評価アンケート結果と分析	イ. 学校関係者評価委員会からの意見
<p><評価が相対的に高かった項目></p> <ul style="list-style-type: none"> ○教育内容の公開に努めている ○清掃・安全管理が行き届いている ○緊急時の情報伝達が適切 ○生活指導により中高生らしい礼儀マナーが身についている <p>(すべて満足度84%以上)</p> <p><評価が相対的に低かった項目></p> <ul style="list-style-type: none"> ○キャリア教育が十分である ○進路指導に関する情報が十分 ○カリキュラムが充実している ○家庭での学習が十分行われている 	<p>学校法人城星学園学校関係者評価委員会は理事会・後援会（保護者）・各学校種管理職・評議員（学識経験者）により構成されている。2019年度学校評価に関する検討は2020年3月31日（火）に行われた。</p> <p><意見まとめ></p> <ul style="list-style-type: none"> ○教育内容について <p>アンケート結果を見るに、保護者は進学・受験を念頭に回答しているものと思われる。学習指導要領によって教える内容や学びの枠組について定められているところではあるが、その枠組みを越え、学習塾などから講師を招き、生徒一人ひとりの学力レベルや学ぶ意欲などに合わせた少人数制の放課後授業などを取り入れてみてはどうだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教育目標と授業について <p>「学校を選ぶ上で重視した点に関する結果」は「校風」が上位にあるため、キリスト教の教えや雰囲気は城星学園の大事な軸であると思われる。一方で、「学校に期待すること・求めること」で上位にあるように、教育活動の進め方と学力向上の必要性は強く感じるところである。今後を見据えれば、保護者と協力し学力向上を目指すことが重要であろう。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標 (2019年12月実施の学校評価アンケート結果)	自己評価
1 による ド カン ト リ ツ ス ク コ 学 の 校 精 を 神 維持する	アシステン ツァを充実させる	ア)カトリックの考えを示すローマ教皇の言葉、創立者の言葉に触れながら、学園の教育の根底にある考えを具体的に知る。	設問「学校は建学の精神および教育理念に沿った教育を行っている」のA・B評価が80%以上。	ア)A・B評価 77.6%。校長が職員朝礼・職員会議で聖書の教えを繰り返し伝えている。(○)
		イ)朝礼、終礼の祈りを丁寧に、落ち着いた環境の中で行うために、司牧部を中心に各担任、副担任が指導にあたる。	設問「教育目標(および指導方針)に沿った教育を行っている」のA・B評価が80%以上。	イ)A・B評価 70.1%。下校時にマリア像前での感謝の祈りをしない生徒が見受けられる。(△)
2 安全「園児管理・児童を徹底・する生徒	生徒の安全を確保するための環境を整備する	ア)SNS使用、防犯、薬物乱用防止、防災対策のための生徒向け、教員向けの研修を行う。	設問「子どもの心身の健康に関するカウンセリングの体制を整備している」のA・B評価が80%以上。	ア)A・B評価 60.3%。担任によるはじめのある指導が不足している。(△)
		イ)学年と生徒指導部、教育支援、教育相談室との情報共有を密に行い、組織的に対応する。	設問「いじめ防止について十分に取り組んでいる」のA・B評価が80%以上。	イ)A・B評価 61.2%。問題事象に対して、後手に回らず、素早く対処するように努めたが、不十分であった。(△)
3 社会「良心的な人間、教員を育成する」を育成する	教員はそれぞれにプロの集団の一員であることを自覚し、その向上を常とする	ア)教育企画室と共に、新しいカリキュラム、新しい取組みの導入を計画的に準備する。	設問「子どもにとって将来につながる総合的な学習を十分にしている」のA・B評価が80%以上。	ア)A・B評価 62.9%。教育企画会議で検討したことを、新年度は確実に実践していかなければならない。(△)
		イ)各クラスに行う礼儀作法(総合学習内)の授業をクラスの指導に生かす。	設問「学校の生活指導を通じて、中高生らしい礼儀・マナーを身に付けている」のA・B評価が80%以上。	イ)A・B評価 84.6%。先生との会話において、敬語を正しく用いられるように更に指導を続ける。(○)
4 の 連 携 種 を 強 化 す る 兄 妹 校 間	他校種及び兄妹校と協働する	ア)「はぐくみの園」の中で、特に今年度は、中学への内部進学増加策、中学から高校への一貫教育の在り方について、再検証する。	設問「中学校・高等学校は、小学校と連携した活動を行っている」のA・B評価が80%以上。	ア)A・B評価 66.4%。時程の見直しなどにより、新年度から小中高の一体性をより高める必要がある。(△)
		イ)教科、部活動等、可能なところから兄妹校の教員と協働する機会を増やす。	設問「学校は、地域との連携を積極的に図っている」のA・B評価が80%以上。	イ)A・B評価 62.9%。小さな交流の芽をもっと育て、大きな交流に繋げなければならない。(△)
5 せる 学 園 に 交 わ る	組織的な縦横の繋がりを強化する	ア)他校種、法人の教職員との自然な笑顔の挨拶、「紹介ブック」を用いながら顔と名前を知る。	設問「教員間での連携が十分に図られている」のA・B評価が80%以上。	ア)A・B評価 64.1%。校種の枠を超えた意見交換の場を設定できなかった。(△)
		イ)自然に挨拶の声が飛び交う心の風土づくりを行う。	設問「教職員は、気持ちの良い挨拶を行っている」のA・B評価が80%以上。	イ)A・B評価 83.8%。程よく挨拶ができています。(○)